

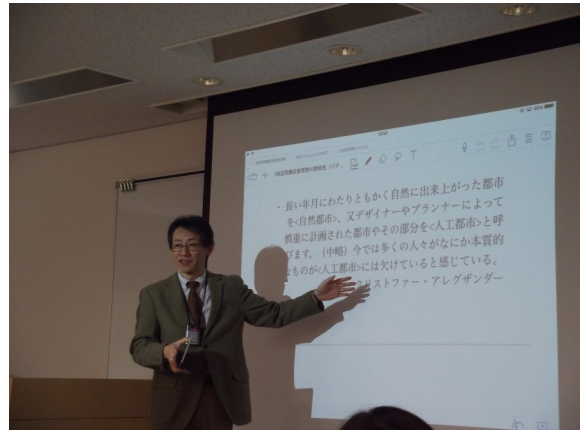
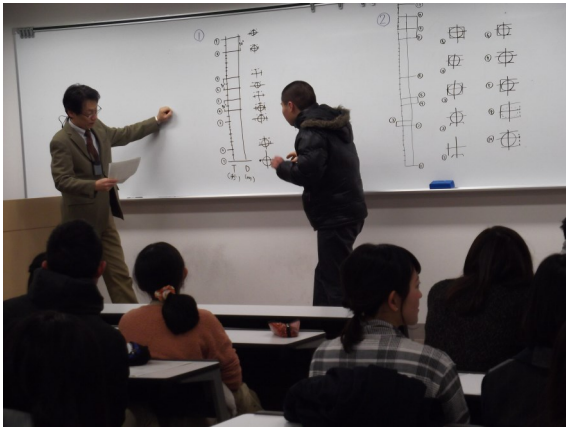
生活空間学

担当教員： 近藤 桂司

履修年次・区分： 3年（専門－展開－計画・デザイン）

授業のテーマ： 現実の環境から何を読み取り、それらをどのように扱い、諸条件とどのように折り合いをつけていくのか。空間のデザインとは空間全体を分析し把握しながら個々の問題を解決していく行為であり、空間や空間を構成するエレメントに意味を与える行為でもある。デザインを仕事とするにはその結果を形にする職能が必要であるが、空間を利用したりデザインを依頼する側にも、空間を理解し、自分の考えを伝達する力が必要になる。

この日の授業内容： 空間の記述の演習、空間構成要素間の関係性



前回の授業で学んだPhilip Thielの空間記述法を使い、自分の住む建物を記述してきた学生たち。今度はその記述を別の学生が見て、どんな建物かを読みとっています。

「まず、前方にドアがあります。それから2秒歩くと、左右に低い壁があり、上部にはスクリーンのようなものがあります」

「ここでエレベーターに乗って1.2m上がっていますので、この部屋は3階です」
きちんと伝わりました！

「よく『街の活性化』、なんていうけれど、活性化って何でしょう？」先生の質問に「楽しみがある」「自然と人が集まっている」などの意見が挙がりました。「それなら、福山駅から大学までの道には朝と夕方は結構な人が通っているけど、これをもって福山市は活性化していると言っていいですか？」鋭い切返しに、学生たちは一生懸命答えを探します。

(2016年1月取材)